

対馬市民
街頭インタビュー調査結果

(1) 調査の概要

- ・ 10月3日(土) 10-12時/厳原エリア(対馬市交流センター1階)
- ・ 10月3日(土) 14時半-16時半/美津島エリア(スーパーサイキ美津島店)
- ・ 10月4日(日) 10-12時/豊玉エリア(スーパーサイキ豊玉店)



調査風景(対馬市交流センター1階)



調査風景(スーパーサイキ美津島店)



調査風景(スーパーサイキ美津島店)



調査風景(スーパーサイキ美津島店)

(2) 回答者の属性

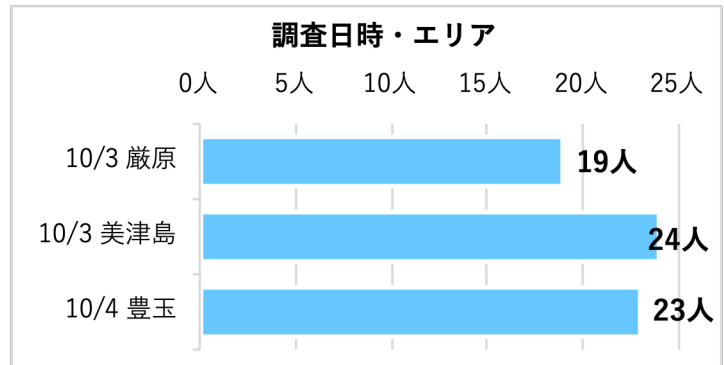
全回答者数：66人

①調査日時・エリア

それぞれのエリアで約20人の方にインタビュー調査を実施した。

■調査日時・エリア

属性	人数	割合
10/3 厳原	19人	28.8%
10/3 美津島	24人	36.4%
10/4 豊玉	23人	34.8%
合計	66人	100.0%

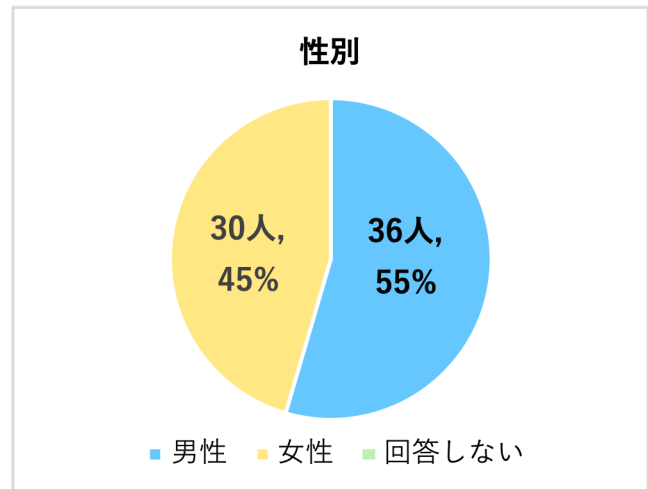


②回答者性別

回答者性別を見ると、男性が半数以上と多くなっている。

■回答者性別

属性	人数	割合
男性	36人	54.5%
女性	30人	45.5%
回答しない	0人	0.0%
合計	66人	100.0%



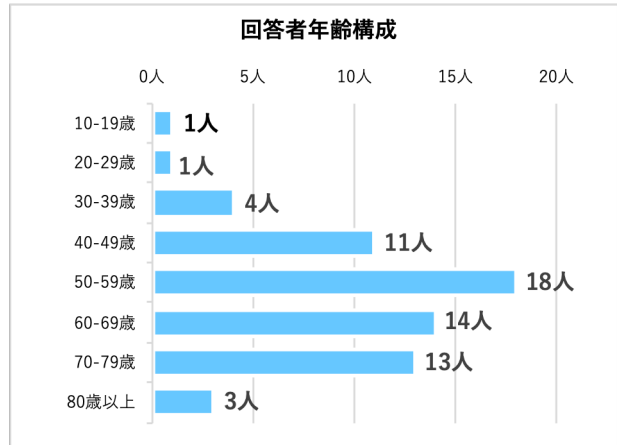
(2) 回答者の属性 全回答者数：66人

③回答者年齢

回答者年齢を見ると、50-59歳が18人と全体の約3割を占めて最も多い。ついで、60-69歳、70-79歳、40-49歳が続いている。

■回答者年齢

属性	人数	割合
10-19歳	1人	1.5%
20-29歳	1人	1.5%
30-39歳	4人	6.2%
40-49歳	11人	16.9%
50-59歳	18人	27.7%
60-69歳	14人	21.5%
70-79歳	13人	20.0%
80歳以上	3人	4.6%
合計	65人	100.0%

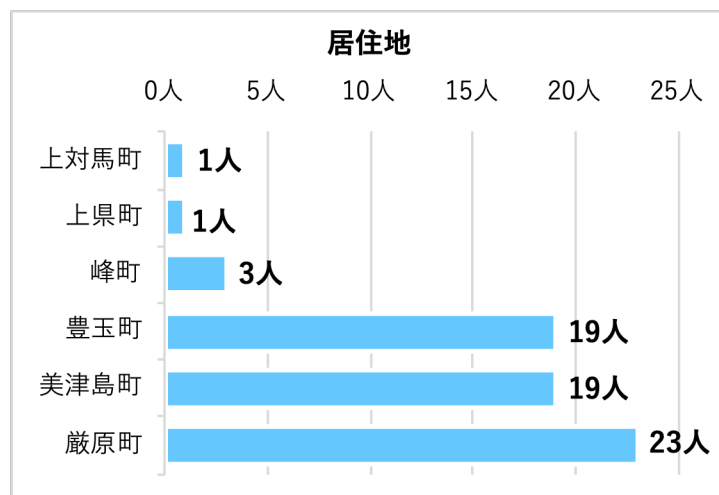


④回答者居住地

回答者居住地を見ると、厳原町が23人と最も多く、次いで美津島町・豊玉町が19人と同数を占めている。調査を実施したエリアと関連していることがわかる。

■回答者居住地

属性	人数	割合
上対馬町	1人	1.5%
上県町	1人	1.5%
峰町	3人	4.5%
豊玉町	19人	28.8%
美津島町	19人	28.8%
厳原町	23人	34.8%
合計	66人	100.0%



(2) 回答者の属性 全回答者数：65人

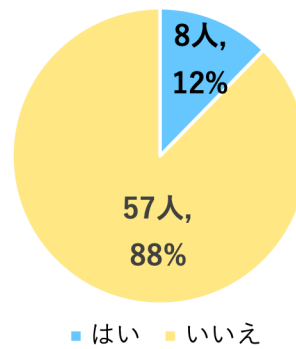
⑤観光事業への従事

観光に関わる仕事に従事しているかについては、「はい」が8人と全体の約1割に留まっている。

■観光に関わる仕事

属性	人数	割合
はい	8人	12.1%
いいえ	57人	86.4%
合計	65人	98.5%

観光に関わる仕事に従事している？



観光の業種

宿泊サービス／3人、飲食サービス／2人、交通サービス／1人、物販・お土産／1人
漁業関係者／1人

(3) 対馬観光へのニーズ

①住民の観光満足度

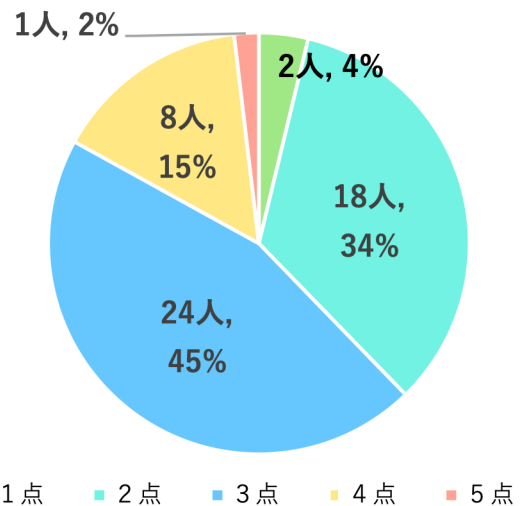
住民の観光満足度を見ると、3点が24人と最も多く全体の約半数を占めるほか、2点が18人・約3割を占めている。4点は8人、5点は1人で、4・5点の割合は全体の2割程度である。

全体としての満足度平均点は2.77点である。

■住民の観光満足度

属性	人数	割合
1点	2人	3.8%
2点	18人	34.0%
3点	24人	45.3%
4点	8人	15.1%
5点	1人	1.9%
合計	53人	100.0%

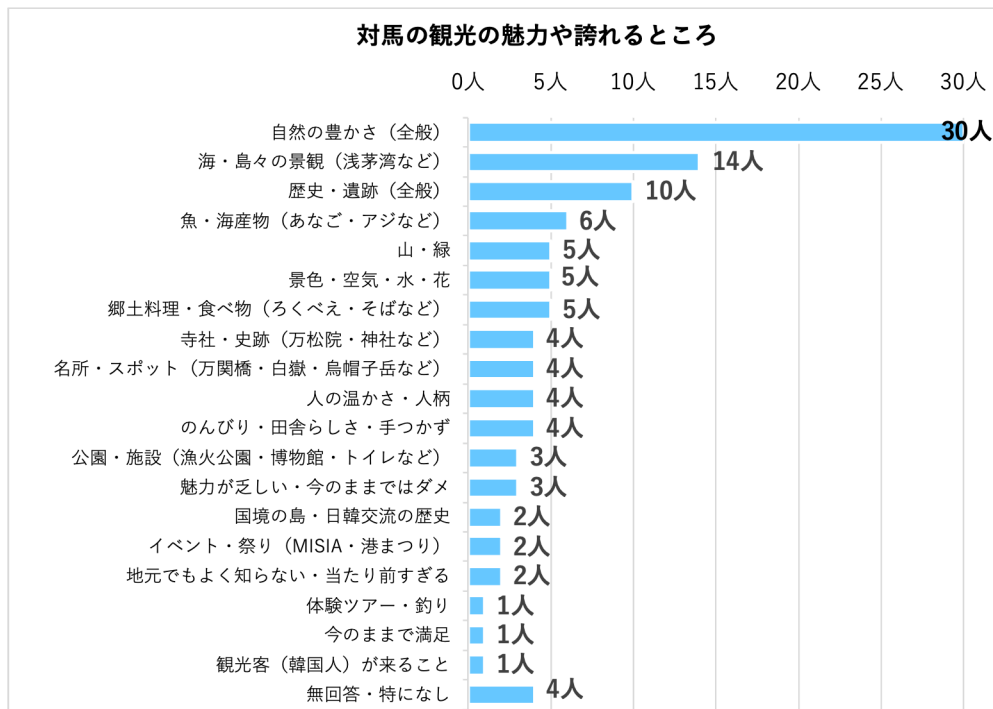
住民の観光満足度



(3) 対馬観光へのニーズ

②対馬の観光の魅力や誇れるところ

「対馬の観光の魅力や誇れるところ」について見ると、「自然の豊かさ」が30人と最も多く、回答者66人における有効回答割合は約半数に迫っている。その他、「海・島々の景観」「歴史・遺跡」「魚・海産物」などが上位を占めている。



考察ポイント

①自然は圧倒的だが、語られ方は「自然」と曖昧な捉え方。

30人が「自然」「自然が豊か」とだけ答え、浅茅湾など具体的な場所まで挙げた人は一部。住民へのアンケートと同じ傾向である。

②歴史は自然に次ぐ2番目の魅力で、具体名も出ている。

万松院、神社、博物館、「国境の島という歴史」などが挙げられている。

③「何もないこと」を価値と捉える声も。

「未開拓なところ」「田舎を見てもらう」「時間に縛られない」など、のんびりした雰囲気や人の優しさについての意見が多く挙げられている。

④対馬の観光の魅力を実感できていない人も一定数。

「海だけしかない」「大したことない」「地元でもほとんど知らない」「特になし」「わからない」などの意見があり、地元には当たり前すぎて魅力として意識されにくい傾向がある。

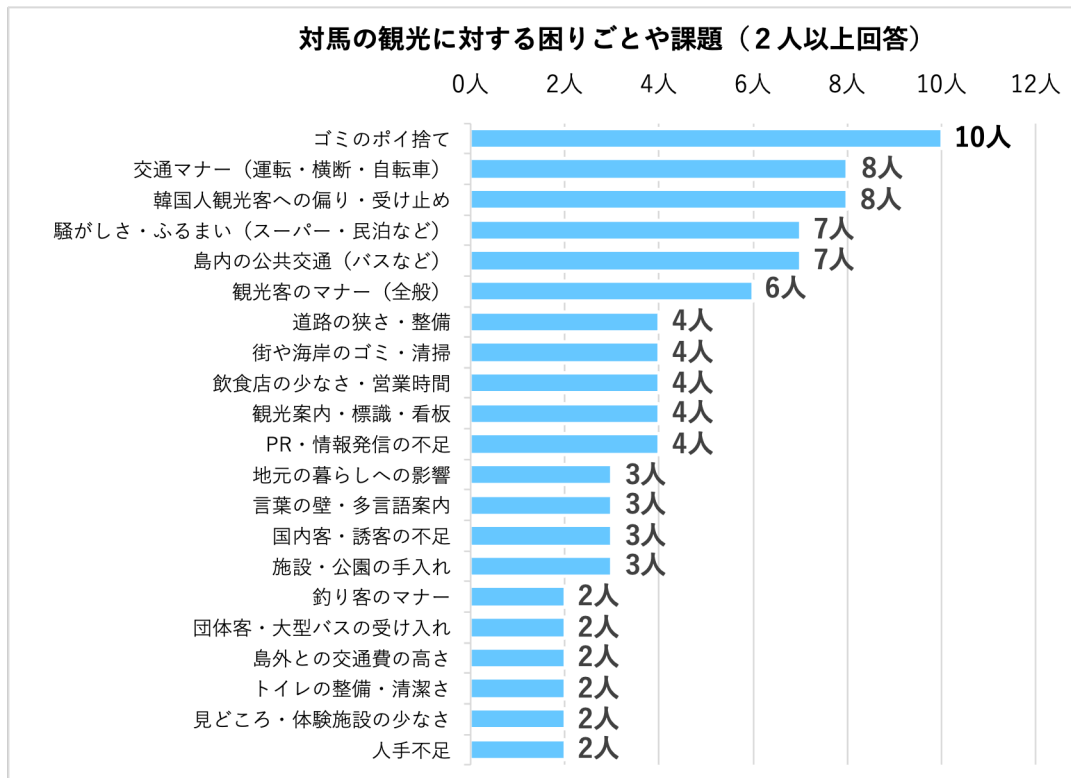
⑤食の魅力はあなごや魚が中心。

魚・海産物が6人、郷土料理やそばが5人。

(3) 対馬観光へのニーズ

③対馬の観光に対する困りごとや課題

「対馬の観光に対する困りごとや課題」について見ると、「ゴミのポイ捨て」が10人と最も多く、ついで「交通マナー」「韓国人観光客への偏り・受け止め」が上位を占める。上位2、3位に加え、「騒がしさ・ふるまい」「観光客のマナー」など韓国人観光客に関連する課題が多く見られる。また、「島内の公共交通」「道路の狭さ・整備」などアクセスに関する意見も多く挙げられている。



考察ポイント

①マナーの中身は、ゴミ・交通・ふるまいの3つ。

ゴミのポイ捨てが10人、運転や横断、自転車などの交通マナーが8人、スーパーや民泊での騒がしさ・ふるまいが7人。住民アンケートと同じ傾向が見られる。

②韓国人観光客への偏りを気にする声がある一方、来訪そのものは否定していない。

偏り・受け止めが8人、暮らしへの影響が3人。その一方で「来てもらうのは良いが」「しかし観光は必要」という声や、韓国語の案内が必要だという声もある。

③交通の課題は、島内のバスが中心。

島内の公共交通が7人、道路の狭さが4人。島外との交通費は2人で、住民アンケートより日常の移動に目が向いている。

④島外から来た人を迎える体制が弱い。

飲食店の少なさ、観光案内・標識、PRの不足が各4人で、人手不足も挙がっている。

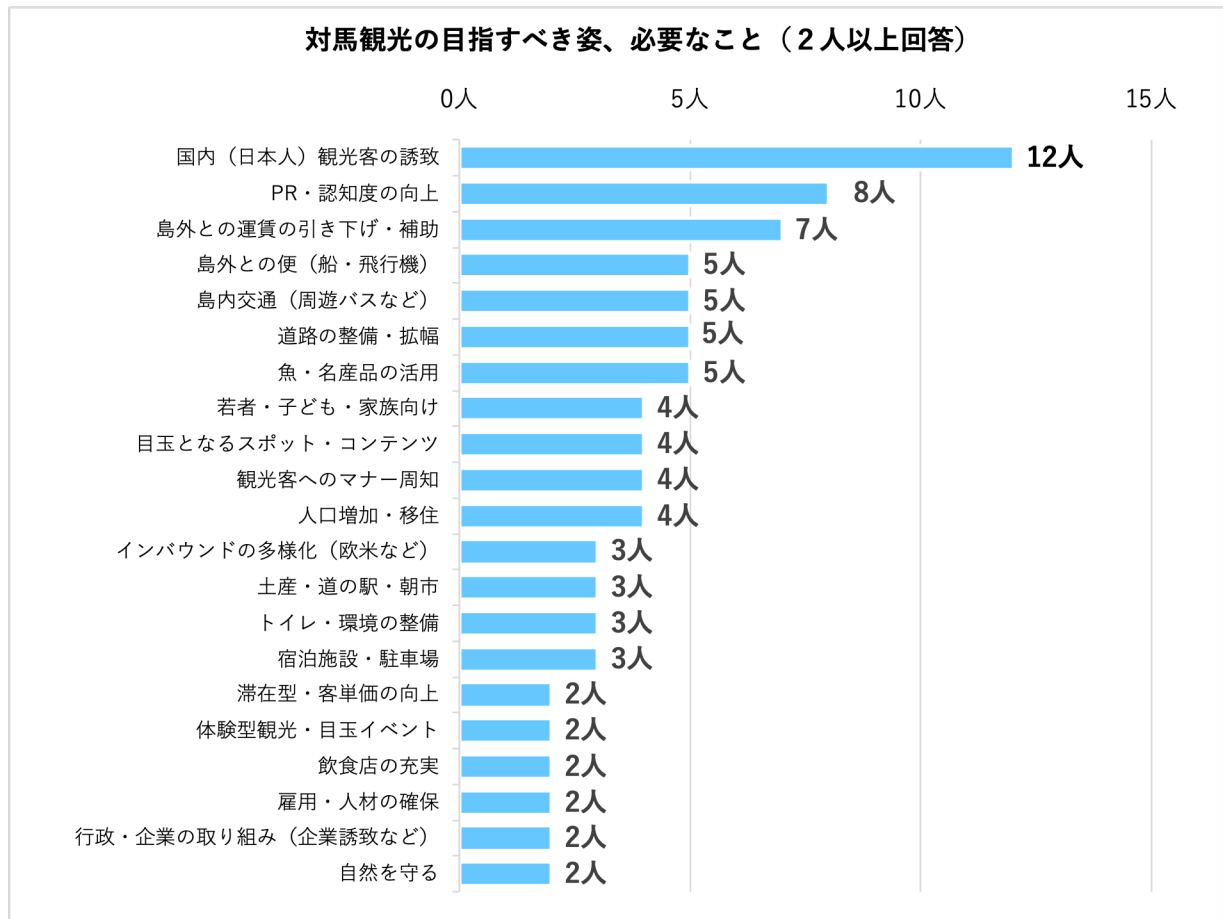
⑤街や海岸の清掃、トイレ、施設の手入れも課題。

上記の内容について9人が触れており、「壱岐に比べて良くない」という比較の声も。

(3) 対馬観光へのニーズ

④対馬観光の目指すべき姿、必要なこと

「これからの対馬の観光」に対する意見を見ると、「国内観光客の誘致」が12人と最も多く、ついで「PR・認知度の向上」「島外との運賃の引き下げ・補助」が多い。特に、島外・島内の交通利便性に関することが上位3～6位を占めていてリクエストが多い。



考察ポイント

①「韓国人観光客だけに頼らない」が目指す姿の中心。

国内客の誘致が12人、欧米などインバウンドの多様化が3人、滞在型・客単価の向上が2人。韓国人観光客の抑制を求める声は1人で、多くは「偏りを正して客層を広げる」方向である。

②国内客を呼ぶための条件として、運賃が挙がっている。

島外との運賃の引き下げ・補助が7人、船・飛行機の便が5人。国内客の誘致と運賃の補助をセットで語った人が5人いる。

③「対馬ならではの」コンテンツづくりが求められている。

魚・名産品の活用が5人、目玉となるスポットやコンテンツが4人、土産・道の駅・朝市が3人。

④観光を、人口や雇用といった地域の存続と結びつけている。

人口増加・移住が4人、雇用・人材が2人、企業誘致など行政・企業の取り組みが2人。